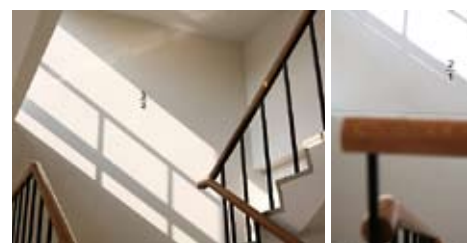
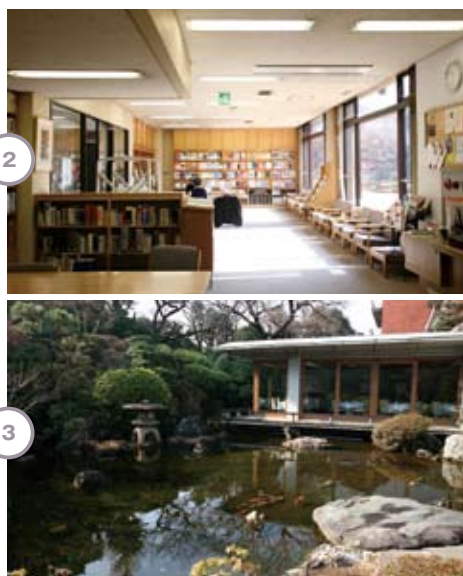
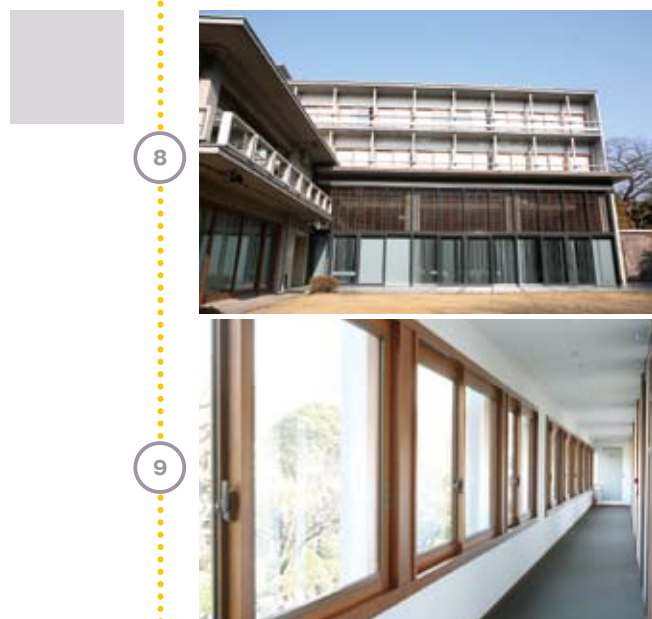




- 1 ロビー
- 2 図書室は会員専用
- 3 鯉もいる
- 4 光と影がきれいです。
- 5 廊下には吉田茂の書が
- 6 昭和の名工の庭が一望できるカフェ
- 7 愛好家垂涎のいすが使われている
- 8 水平と垂直の幾何学的な美しさ
- 9 廊下の美
- 10 周りはこんなに都会です
- 11 武蔵野の面影も
- 12 京都のようだ

International House of Japan

国際文化会館



ロアビルから麻布十番に抜ける通りは、歴史を感じさせる道である。レンガの塀と古い樹々は、歩く人々を和ませてくれる。東洋英和を通り過ぎてすぐ、鳥居坂の手前、江戸風の白壁を乗せた風格ある石垣が、国際文化会館の入り口である。

奥の深いアプローチの先に直線的でモダンなコンクリート造りの建物が見えるが、多くの緑に囲まれているため、機能的でありながら冷たい感じはなくしっかりと落ち着いている。

桜の巨木を見ながら緩やかに登るとガラス張りのエントランスである。一步はいると、ここが六本木の喧騒から5分と離れていないのが信じられないほど本格的な日本庭園が目の前に広がる。京都の庭園にいるような錯覚を覚えるのは、ここが小高い丘の上にありうっそうとした緑が近隣のビルをさえぎっているからだ。同時に一般の宿泊施設とは違う静寂が支配していることに気がつき、会員の多くが内外の学術関係者であることに思いあたる。

会館の敷地の歴史は江戸時代にさかのぼり、もとは多度津藩の江戸屋敷であった。明治に入ると井上馨公爵邸、久邇宮邸、赤星鉄馬邸、岩崎小弥太郎と変遷、戦後現在の国際文化会館となった。この歴史と立地そして会員がかもし出す品格と静けさが、華美に走らず知的な建物の設計とあいまって空間の魅力を形作っているのだろう。

おもに海外との文化学術交流のために設立された会員制のため一般には知られることが少なかったが、コルビジェに代表されるモダニズムの影響下、前川國男、板倉準三、吉村順三が共同設計した1955年築の有名な建物は文化庁の登録有形文化財に、昭和初期の名工7代小川治平作の庭園は港区の名勝にそれぞれ指定されている。

会員のための研究室や図書館があるなど静寂を保つ一方、眺めのよいカフェとレストランは来訪者にも開かれている。散歩の途中、文化遺産ともいえるこの会館で貴顕たちの華麗な歴史に思いをはせてみるのも麻布地区ならではのことである。

(取材・文／高橋 光)

麻布びと



「ひとつのことを長くやることの大切さでありますよね」
青山ブックセンター六本木店 間室道子さん

本屋さんへようこそ！

数年前地方の街の本屋の店員さんが描かれた POP（販売促進のための広告媒体）がきっかけで発売から数年経った「白い犬とワルツを」という本の人気が全国的に広がり映画化までされ話題になったことがある。本を愛する書店員さんへの信頼が一気に形になったような出来事だった。ABC の愛称で文化人やマスコミ、出版関係者のファンも多く、昔から愛されている老舗書店青山ブックセンター六本木店スタッフの間室道子さんも読書人のオピニオンリーダーとして、そして書評家として麻布から全国へ発信されている方である。

はい、六本木のこのお店に20年以上。ねえ、長いですねえ。以前新宿にお店ができた時に（註1）そちらに1年ほどご奉公したことがあるんですけど、そしたらお客さんが私の後を追っかけてそちらに行っちゃったんです。ありがたかったけどキャバクラ嬢じゃないんだって（笑）。大学を卒業した時は「就職氷河期」と言われていた頃で就職ができず、海外にも行きたかったので、ちょっとどこかでバイトしてお金が貯まるとニューヨークへ行って帰ってきてまだバイトしてロンドンへ行って…ということをやっていたんです。そして3回目くらいのバイトがここ。当時東麻布に住んでいて…バブルで、マハラジャがあった頃よー（笑）。たまたまこのお店の前を通ったら「アルバイト募集！」っていうのが出ていて、家も近いし本が好きだからいいやって。実は私実家が本屋なんです。岩手県の一関というところで。だから子供の頃から本屋の中にいることとか、本をたくさん読むということは普通のことで、でも他の本屋さんで働くというのはここが初めて。その前はお花屋さんや出版プロダクションでバイトしたのだけど、本屋の娘でいることと、本屋で働くということのなんたる違うことよというのに呆然としつつ…だけど「ああ、私の場所はここなんだ」ということがわかったんですね。そしたらもうこんなに居ついてしまって（笑）。

本に囲まれて育った本屋の道子ちゃんが利発な文学少女だったことは想像に難くない。アニメの声優さんのように可愛らしい声できれいな言葉を話す間室さん。雑誌、インターネットの書評欄だけでなくテレビ、ラジオの出演依頼が多いのも頷ける。

日本展示図書館からいきなり電話が掛かってきて、月に一回朗読をしてくださいって言われて…。しかも本を読むのではなくてこれはと思う本についてのエッセイを書いてそれを朗読したものを吹込む。それが全国の目の見えない方の家庭に行くんです。一昨年の秋くらいからやっていますね。写真集のことを紹介したりもしていますよ。ルポの部分が面白いから目の見えない方たちにもこんな本が世間で出ているって紹介したほうがいいんじゃないかなと思って。福田和也先生のラジオ番組に呼んでいただいたり…福田和也先生よくいらっしゃるんですよ。「東京の流儀」という新刊の中に私どもの店を「東京の宝」とって書いていただいて身に余る光栄です。

六本木通りのこの個性的な書店を愛してやまない著名人は多い。このお店が過去に2度民事再生法の手続きをして営業を停止していた間も営業再開へのエールは続いた。

あの時は朝日新聞に一面広告を出すことができて、石田衣良さん山田詠美さん、本当にたくさんの方がABCのために一行書いてくださって。著名人の方たちが総決起をして何かムーブメントが起きているのでたぶん再開できるだろうとは信じていました。面白かったのは、再開するにしてもすぐには無理だろうから、「お前は今ひまだろう？こんな時に読むべきベスト3はこれだ！」と作家の先生やいろんなところからFAX だとか送られてきて（笑）…それを読んでいた。充電充電。あとPOP描いてた！自分の店員としてのレベルがつぶれる前よりあがってないとだめだと思ったので、嘆くひまがあったら本を読みPOPを描け！って感じですね。

書店員さんという昔はレジで本にカバーを掛けてくれる人で、てきぱきと働く背中にふつふつと本への愛情を醸し出しながらも、今ひとつ遠い存在だった。ところが今やPOP 職人と呼ばれてテレビに登場し、雑誌で素晴らしい書評を展開する本好きの頼れる情報源である。月60冊の本を読むという間室さんばこのミステリーがすごい！（註2）の投票員でもある。

子供の頃ね、押入れの中に電気スタンドを持ち込んで本を読むのが好きだった！なんでなんだろうなあ（笑）。いちばん最初に読んだ本は「点子ちゃんとアントン（註3）」。あれがミステリーの始まりだったと思うんです。あれはやっぱり謎解きがありますよね。それからギリシャ神話を読んだり、江戸川乱歩の

少年探偵団、シャーロックホームズ…全部読みましたねえ。ただルパンは好きじゃなかったの。今ミステリーの先生方ともようやく親しくさせていただく時代が来たのですが（笑）…やっぱりホームズ派とルパン派に分かれるみたいですね。私はルパンはひきょう者だと思っていました（笑）。実家は離れたけれど本からは離れなかった。若い人たちがよく「自分探し」って言うでしょ。「若者がなぜ3年で辞めるのか」っていうけれど3か月で辞めてしまう人たちもいっぱいいて、どこかに自分のもっと適性が…みたいな。でも何かひとつのことを長くやることの真っ当さってありますよね。長くやらないと喜びがわからないことってたぶんいっぱいあって読書ってそのひとつだと思うんです。私ね、読むのがすごく早いし、POP も「なんでこんなものを5



間室さんが担当した「2009 本屋大賞」のコーナーの前で。「本屋大賞」とは「全国書店員が選んだいちばん！売りたい本」というキャッチコピーで選考資格者が「新刊を扱う書店（オンライン書店を含む）の書店員のみ」で書店員有志で組織する本屋大賞実行委員会が運営。過去一年の間、自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票し、一次、二次選考を経て最終的に一冊を決定する、まさに「いちばん売りたい本」を決める文学賞なのだ。

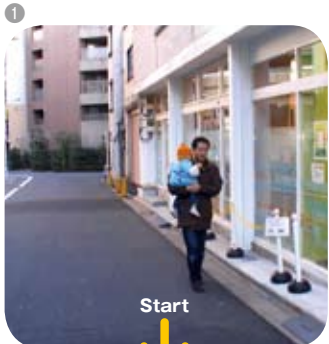
分で書けるんだ」と言われるけど、それは本をたくさん読んできたから、そしてPOPを何枚も書いたから。作家の高橋源一郎さんに「君が好きで得意でしかも長く続けていけるものがあたらそれは神様の贈り物だから大切にきなさい」と言われたんですよ。「長く続けていけるもの」に若い人たちはあまりにも無頓着なんだろうなあ。この言葉は高橋さんに感謝していますね。だからこの仕事はきっと神様からの贈り物なんですよ。本のコンシェルジュとかソムリエと名乗るつもりはありません。世界に向かってあなたのTPOに合わせて本を紹介できると叫ぶなんて私にまだそんな能力はありません（笑）。だけど何か問いかけられたらその時に自分の持っている知識をすべて持って誠心誠意を込めて対応をしてあげることはできる。そうねえ、会社が許してくれる限り（笑）…ここにはいたいですねえ。

活字離れや世にあふれるさまざまな娯楽の出現などから出版不況と言われて久しい。日々本に空想旅行を求めているわが身にとって悲しいことではあるが、ここは経済危機と同じ、「不況」と言っても元氣なところは元氣なものだ。写真の本は間室さんが最近お薦めの3冊である。間室さんの話を聞いているとすべてすぐにでも手に取って読みたくなった。ここで紹介できないが書評を聞きたい方はぜひお店へ。今度手にする本に迷ったらここに行こう。この場所にこの人あり。地道な作業とはまた違うベクトルで、書店員という仕事をとてつもなく素敵な職業に作り上げた間室さんがそこにしてくれる。

（註1）現在は閉店
（註2）宝島社が1988年からはじめたミステリー小説のランキング。今やミステリーを読む上での読書指針となっている。
（註3）ドイツの児童小説。エーリヒ・ケストナー著。
（取材／大村公美子、伊東みゆき 文／伊東みゆき）



新米パパでも安心！ 子連れにもやさしい商店街でBabyと初デート



情報 A
●子育てひろばあっぱい麻布の案内
開設時間：10:00～18:00
対象：港区在住の0歳～3歳の乳幼児と保護者
利用方法：事前登録が必要
お問い合わせ
電話／03-5114-9900



(取材／尾崎恭彦、石山恒子、鈴木敏江
写真・文／鈴木敏江)



子どもに生きていく力を

親子で
読んでみよう

KIDS'... ハローワーク

ホテルのお客様を心をこめてお手伝い

グランドハイアット 東京

両襟にある金の鍵バッジは、世界組織「レクレドール」の正会員であることの証です。日本では、現在16人がこのバッジをつけています。
(チーフコンシェルジュ：阿部佳さん)

世の中にはいろいろな仕事があります
コンシェルジュ

港区六本木六丁目には、グランド ハイアット 東京というホテルがあります。チーフコンシェルジュの阿部佳さんに、ジュニア編集員・大村響ちゃん(9歳)とうかがって、お話をまとめてみました。

響ちゃんは「コンシェルジュさんは、お客さんのいろいろな悩みに答えてくれるなんて、すごいなあ」と思っていました。

どんな仕事をするの？

ホテルのお客様の滞在をよりよくしましょう、という仕事をしています。法律や道徳に問題がない限り、どんなご質問やご要望にもお答えできるよう努力します。

道案内、ホテル内外のレストランの案内、チケットやレンタカーの手配、旅行のプランニング、ビジネスのお手伝いなどを行っています。人探しや物探しのご相談をいただくこともあります。

ご質問やご要望は、突き詰めて調べ、あきらめずに手をつくします。コンシェルジュの仕事の楽しさは、うまくいく手がかりが見つかった瞬間に、大きな喜びを感じることです。反対に、この仕事の難しさは、人の心を読みとることです。

コンシェルジュの力は、わからない時に知恵を貸してくださる方々です。そのため、チームやネットワーク作りに気をつけています。ホテル内の仲間、他のホテルのコンシェルジュ、取引先の皆さんとおつきあいを大切にしています。

どうしたらなれるの？

コンシェルジュになるには、資格や特別な勉強法はいりません。大事なことは、いろいろなことに興味を持ち、アンテナを張って、何でも知れた



「心を開いて多くの人の話を聞いてください。たくさん本を読んでください。」

がる気持ちです。自分の五感で確かな情報を集め、広い人脈を作り、よく考える習慣をつけること。そのため、普段から街歩きをしています。麻布地区の情報も、できる限り現地に出向いてチェックします。ここには、公園や美術館などの施設や、展覧会など話題のイベント、いろいろな目的の店があるので、ご提供できる情報が充実しています。また、お客様をわかってさしあげるには、外国語、一般的知識、社会常識が必要になります。そして、それらを心のこもった美しい言葉でお話しするようにしています。健康管理に関しては、どんなことでも楽しもうとする姿勢がいい影響を与えているような気がします。

ホテルには、日常とは違う雰囲気があります。ご質問やご要望はお気軽におたずねください。コンシェルジュデスクで、皆様にお会いできることを楽しみにお待ちしております。

阿部さんは、子どもの頃からお友達の相談にのることが得意だった、と教えてくれました。響ちゃんは、やっぱりねー、と思いました。

(取材／大村公美子、大村 響、石山恒子、伊藤志織 文／伊藤志織)



上：ホテルロビー
左：コンシェルジュデスク

Madagascar



①



②



③



① バオバブの木とキツネザルを目当てに、世界中から観光客が訪れる。
(写真：マダガスカル大使館提供)

② バニラストックとスパイスは主要農産物。

③ ビジネス経験豊富なラミアンジソン特命全権大使。

④ 上からバニラで作ったかご、水牛の角でできたベルト、プラムとシナモンそして珍しいジンジャー(生姜)のジャム、ラフィア製(椰子の一種)のかごバッグ。水牛のベルトは、異なるデザインのものが小泉元首相にもプレゼントされた。
ジャムは Bon repas(ボン・ルパ) 麻布十番店にて



麻布の"世界"から

豊かな自然が魅力、 「世界の宝島」マダガスカル

マダガスカルと言えばバオバブの木とキツネザル。そしてこの島でしか見ることのできないユニークな動物や植物。その素顔は、いったいどんなものだろう、そして人々はどんな生活をしているのだろう。期待に胸を膨らませて大使館を訪れた。

大使館の前には細長いグリーン石碑が配置され、鮮やかな白と緑、そして赤の国旗が描かれたその下に、島国マダガスカルが掘り込まれている。南北に長く、日本の1.6倍、世界でも第4位という大きさを誇るマダガスカル島は、東アフリカの東南に位置し、文化的にもアフリカとアジアの両方の影響を受けている。例えばフランス語と英語、そしてマダガスカル語が公用語だが、マダガスカル語はインドネシアにその源を発する。また、アジアの国々と同じように米が主食で、様々な種類の米を一日3食いただく。宗教的にも、マダガスカル古来の伝統宗教やキリスト教の他、アラブ系のイスラム教徒が7%を占めている。

多忙の中、時間を割いてくださったラミアンジソン特命全権大使に、マダガスカルの人々がどのような生活をしているのかうかがった。国民の約7割が農業に従事し、世界供給の60-70%を占めるバニラ、そしてコットン、スパイスを中心に、世界中に農産物を輸出している。最近海外からの投資勧誘にも力を入れているので、人件費が安く良質なコットンが生産されるこの国に、アメリカの有名アパレル企業が工場を開き、そこで働く人も増えている。日本で人気のアメリカンカジュアルブランドも、タグをひっくりかえしたら「メイド・イン・マダガスカル」になっているかもしれない。豊かな自然環境の中、鉱業分野も活発で、ニッケル、コバルトなどの鉱物のほか、サファイア、ルビーなどが採掘される。日本企業もこの鉱業分野にかなりの投資をしているらしい。

珍しい動物や植物を見ようと世界中から観光客が集まってくるので、観光にも力を入れている。「バオバブの木」というのは1種類かと思っていたら、実は9種類もあるそうで、そのうち7種はマダガスカル固有の品種だ。日本では「ワオキツネザル」がよく知られているが、この島だけで30種類以上の

マダガスカル共和国
面積：587,041 平方キロメートル (日本の 1.6 倍)
人口：1,960 万人 (2007 年、UNFPA)
首都：アンタナナリボ (人口 484 万人：2003 年)
民族：アフリカ大陸系、マレー系、部族は約 18 (メリナ、ベチレオ他)
言語：マダガスカル語、フランス語 (共に公用語)
(2007 年 4 月の憲法改正で英語も公用語となった。)

宗教：キリスト教 41%、伝統宗教 52%、イスラム教 7%
政体：共和制

元首：マーク・ラヴァルマナナ大統領 (Marc RAVALOMANANA)
議会：二院制 (国民議会 127 議席、上院 90 議席)

外務省ウェブページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/madagascar/data.html> より

取材協力/マダガスカル共和国大使館

キツネザルが確認されている。1万2千年以上前に大陸から離れてできたと言われるマダガスカル島には、固有の生物が数多く生息し、まさに「世界の宝島」だ。渡された小冊子を見るだけでも、一度は会ってみたい生き物が満載である。セラブナリゾートホテルもあるので、長期間滞在して、ここにしかない自然を是非体験してみたい。

「日本がはじめての外交官としてのポスト」というラミアンジソン大使は、着任して約1年、40歳の若さである。大統領にこのポストを指名されるまで、企業のCEO(最高経営責任者)を勤めておられた。様々な国籍やバックグラウンドを持つ人々と知り合い、意見の交換ができることが、大使の仕事の最も楽しいところと話された。マダガスカルは、独立国としての歴史は以外に浅い。長い間王国として栄え、その後イギリスの影響を受け、さらにフランスの植民地時代を経て、1960年に独立した。その9年後には、赤坂に最初のマダガスカル大使館が開かれている。1973年に現在の麻布に移転し、大使をはじめ

職員の方々は便利な麻布が気に入っておられるようだ。地元住民を巻き込んでのイベントも定期的に行っているの、興味のある方はウェブサイト (madagascar-embassy.jp/) をチェックしてください、と大使から麻布の皆さんへの伝言をいただいた。



④



(取材/加藤智恵、事務局・武田優美 文/加藤智恵)

Azabu-nista

麻布で働く外国人レポート



Belarus Home Cooking「MINSK」 general manager
Barysiuk Viktoryia

麻布の街で、ベラルーシの母の味を提供。

ヴィクトリアさんがマネージャーを務めるお店は、麻布小学校の並びにあるベラルーシ料理を食べさせるレストランです。ベラルーシ共和国は、ロシアやウクライナ、ポーランドに接する東ヨーロッパの国。お店の名前のミンスクとはベラルーシの首都の名前です。

姪の勤めで来日してから7年。最初は日本語の勉強をしていましたが、たまたま料理を振舞ったことがきっかけとなり、6年前にお店を開くことになりました。

「ベラルーシでいつも食べている家庭料理を作ったところ、すごく美味しいし、日本でこんな料理を食べられるところはない。これはビジネスチャンスだということになり、話がトントン拍子に進んで、いまのオーナーからお店を任せられました。最初から料理店を開くために日本に来たのではないのです」と、ヴィクトリアさんはこの7年間を思い出しながら話してくれました。

このお店のレシピは基本的にはヴィクトリアさんが作ったもの。塩味や油を控えめにした日本人向けのメニューを選んだベラルーシの家庭料理です。ジャガイモなどの野菜をふんだんに使ったベラルーシの料理は心がなごむ優しい味です。お店のお客様も8割が日本人。ミンスクファンも増え続けているそうです。

すっかり麻布の街に溶け込んでいるヴィクトリアさん

も7年前はカルチャーショックの連続。日本人男性の背の低さに驚き、電車で寝ている人に驚き、東京タワーや高層ビルに驚き、すべてがベラルーシと違って見えたそうです。

「当時は無我夢中で日本語を勉強しました。電車の中では、ベラルーシにはない車内吊り広告をいつも読んでいました。読めないと、近くにいる人に“すみません、これ何と読むの？”なんて聞いていました」と、いまでは流暢な日本語を操るヴィクトリアさん。

現在のお店は人気店で、休む暇がないほどの忙しさ。日本食は、鮭やすき焼き、おそばまで何でもよく食べるそうです。

「たまの休暇には麻布十番を散歩したり、お台場に行ったり、箱根の温泉も好きです。時間ができたら、運転免許を取って温泉旅行に出かけたいです」とすっかり日本びいき。

ヴィクトリアさんの今後の目標は、自家製のパンやクッキー、ケーキなどを提供するミンスクベーカリーをつくること。どんなお味になるのかとても楽しみですわね…。

(取材/伊藤志織、大村公美子、鈴木敏江、尾崎恭彦 文/尾崎恭彦)



ベラルーシの家庭料理「ミンスクの台所」
ゼネラル・マネージャーのバリシユク・ヴィクトリアさん(右)と
姪のエレナさん



Kちゃん介護ノート

⑤

どうしてよいか分からない……

今年の1月、Kちゃん、急に足の踏ん張りがきかず、おかしいなーと思ったら高熱が出て、突然救急車のお世話になって入院してしまったの。2年前の命が危なかった入院から1年目でまた再入院、ひやひやしたわ。でも、今回は対応が素早くすぐに退院できたの。何事もためらわず早め早めが大切なね。

Kちゃんの介護は、いつもおしもはトイレに行き、孤独にさせず、家族の気配が感じられ、寝かしきりにしないで椅子に座る日常生活を維持するように心掛けているの。Kちゃん、体重は軽いけど移動が結構大変で、私達がいつも筋肉痛なの。介護って、こまやかな心づかいが必要で、またすごく力が必要な仕事なのよ。

こまやかな心づかいと云えば、何度かの緊急入院をした時を思い出すわ。

4年前かな、完全房室ブロックと云う心臓の病気でパッタリ倒れて緊急入院した時、手術とお医者さんから言われちゃったの。手術するのかしないのか、手術の危険と手術後今の状態まで回復するか、お薬で何とかならないのか？前から「ピンピンコロリ」と言うKちゃん、この時94歳で、ただただ意識なく生きながらえるだけのことになってはKちゃんも悲しいだろうし……。手術をすすめる若い先生、自然のまままでの普通の生活を重視したい私、冷静に話を聞いて頂いたベテランの先生と、「手術と心身の質の維持」「生と死」等のことをお話したのは、重かったわ。治さなくてはと一心のお医者さ

んも信頼できるし、でも手術で寝たきりになるのも可哀そうだし。万一、手術しないですぐに……と考えると恐ろしいし、自然に生きるってどう考えたらよいの。どうしてよいか分からない。でも最終的にお薬を選んだの……。それから4年、幸運にもうちでKちゃんと一緒にいつもの通りの生活ができているわ。

それからが、またふた山あったのよ。それが誤嚥性肺炎でものが食べられなくなった時なの。2年前の緊急入院は病状がひどく重篤で、「緊急救命処置はどうしますか」って先生に尋ねられたの。万一の時、人工呼吸、心臓マッサージ、心臓電気ショック等をしますかということなのかなと思うけど、意識なく生きているのもつらいだろうし、どうしたらよいか分からない。

その時「先生、リハビリをお願いします」って言ったの。だってただ生きながらえることも大切だけれど、今までどおり普通の日常生活をすることがなにもまして人らしく生きることと思って、絶対元気にさせるって考えていたからなの。病院の先生や看護師さんの看護、理学療法士さんのリハビリで、Kちゃんの肺炎は良くなってきたの。そこで点滴をやめ、飲み込みの悪い患者さん用に作られた嚥下困難食を始めるとやはり再び肺炎になってしまったの。回復の後、口周り、喉の筋肉の反射や筋力のリハビリがなかったからと先生に無理を言って1週間リハビリをさせていただいたの。でも、食事を始めると4

日目ぐらいから炎症を示す数値がだんだん上昇してきて誤嚥性肺炎を再、再発してしまったの。ご飯がのどを通らないと栄養補給できず、命は「喉」にあると思ったわ。

口から以外に栄養を補給する方法は、中心静脈栄養法の点滴か、経管栄養法で鼻からチューブで栄養をあげるか、「胃ろう」と云って胃に器具をつけ直接栄養剤を流し込む等がありますが、どうしますかと先生からいろいろ説明され、「胃ろう」がよいと思いますよって言われたの。

いずれにしても、人として食物の味を楽しめないなんて、ある意味最高の楽しみを失うことになると思った時、どうしてよいのか分からなくなってしまったわ。

結局、一週間悩みに悩んで、Kちゃんが苦しくなく、うちで一緒に暮せて、私たちが管理できて、普通の生活ができる方法と云う事で「胃ろう」の手術をしたの。辛かったわ。でも今は「胃ろう」になれば、これでよかったと思っているわ。

この頃、介護する人の健康や精神面も考えると本当に難しく、介護保険制度を利用して皆さんの手をお借りしながら、色々工夫をしないと共倒れをするのかなと介護をしていて思うの。介護している方々はご自分の健康や心の容量のかさ上げに心掛け、息が詰まらない様に工夫をしてくださいね。でもね……心の中のじゅ文はいつでも "YES WE CAN"。

(M)

麻布の軌跡

麻布く大連レールでつながる縁
(麻布狸穴町) 南満州鉄道・東京本社

「満鉄」の名で知られる南満州鉄道株式会社。明治 39 年（1906 年）に設立され、鉄道事業以外にも炭鉱開発、ホテル経営など多彩な事業を展開し、大規模な都市計画を行ったことで知られる。今回は麻布と大連、両都市で奮闘した二人の総裁の軌跡を追った。

満鉄発祥の地 麻布

最盛期には 80 余りの関連企業を持ったといわれる「満鉄」。その発祥の地はロシア大使館裏、麻布区麻布狸穴町 4（現港区麻布台 2 丁目）にある（註 1）（註 2）。

明治 39 年（1906 年）の設立後短い間だが東京本社があり、現在の商船三井の所在地に移転した後も社宅があったとされている。初代総裁後藤新平は現在の中国大使館に自宅があり、後継者である 2 代総裁中村是公も現在の芝地区に自宅があった。港区と縁が深く、また両者は共に満鉄総裁をつとめた後、東京市長に就任している。「大風呂敷」と派手な仕事を擲擧された後藤新平に対し、後藤の意思を引き継いだ忠実な実務家が中村是公だった。

中村是公は文豪夏目漱石の親友としても知られる。漱石も満州を訪れ中村と会った話は「満韓ところどころ」に詳しい。双葉亭四迷も朝日新聞特派員時代、後藤と会見した（註 3）。

後藤の思想が残る大連の街

「街の中央に直径 700 フィートの広場をつくり、この広場から放射状に十筋の大通りを設けた。夕暮れになると、広場の中央を囲んでいるガス灯の青白い灯がともされて、神秘的な雰囲気気が漂った。（中略）5 月になると、アカシアの甘い香りが大連の街を包み、白い花房のゆれる下を人々が往来した」（松原一枝著「幻の大連」）。

春節に大連を訪ねた。現在の麻布に満鉄の面影はないが、100 年以上たった今も大連大広場を囲み、横浜正金銀行、ヤマトホテル、朝鮮銀行など満鉄時代の西洋建築物が並ぶ。電柱は地下に埋められている。

満鉄本社は現在大連市の鉄道当局が使用する建物だが、2 年前に建物の左半分を使い、大連で初の満鉄の歴史を紹介する本格的な施設「大連満鉄旧址陳列館」が完成、礼拝堂や総裁室が公開された。現地の旅行会社を介して見学ができる。

大連の街は後藤新平の思想を色濃く反映させた街だ。対外関係を円滑にしていこうと軍備の強化よりも鉄道や港湾

の整備、産業経済、教育、衛生、学術などの文化の発展が非常に役に立つと後藤は考えた。大連港を整備し、軌道を広軌に作り変えて輸送力を増強する一方、ヤマトホテルを作り、駅を都市の中心とした。公衆衛生を重視して上下水道を整備したところは、医者出身である後藤らしい。満州医科大学で地域に根ざした人材養成を試み、アカシア、ポプラ、ヤナギを植えて景観の美しさも後藤は考慮した（註 4）（註 5）。



中村是公（左）
犬塚新太郎（満鉄理事）
夏目漱石
写真／小川忠彦氏提供



明治 29 年当時の狸穴町
(現在の麻布台二丁目)



新任満鉄総裁・後藤新平

支那服を着た後藤新平

写真／鶴見祐輔著「正伝 後藤新平 4」（藤原書店）より

二人の東京市長と帝都復興

大連の都市計画は後に大正 12 年（1923 年）に起きた関東大震災の帝都復興に生かされることになる。

大震災による焼失はロンドン大火、サンフランシスコ地震の火災と比べても世界最大級だった。阪神・淡路大震災の復興事業が 10 年かかったが、後藤と中村、二代の東京市長の連携プレーにより、6 年半でやり遂げている。

後藤は、焼け跡の東京で昭和通り、靖国通り、晴海通りなどの道路を整備し、江戸時代の市街地を引き継ぎながら区画整理を行った。永代橋などの近代的な橋や東京駅、同潤会アパートなどの集合住宅、横浜の山下公園も作った。

環 1 から環 8 までの環状構造道路計画も立てられ、一部実現されている。後藤の復興計画は現在に至るまで有効性が失われていないと高く評価されている（註 6）。

また今日の J R の基礎を築いたのも初代鉄道院総裁であった後藤の功績だ。後藤が工作局長に抜擢した島安二郎の息子、島秀雄氏が十河信二の国鉄総裁時代、技師長となり東海道新幹線が作られた。「ひかり」「のぞみ」などの名前は満鉄時代走っていた急行列車から命名されている（註 7）。

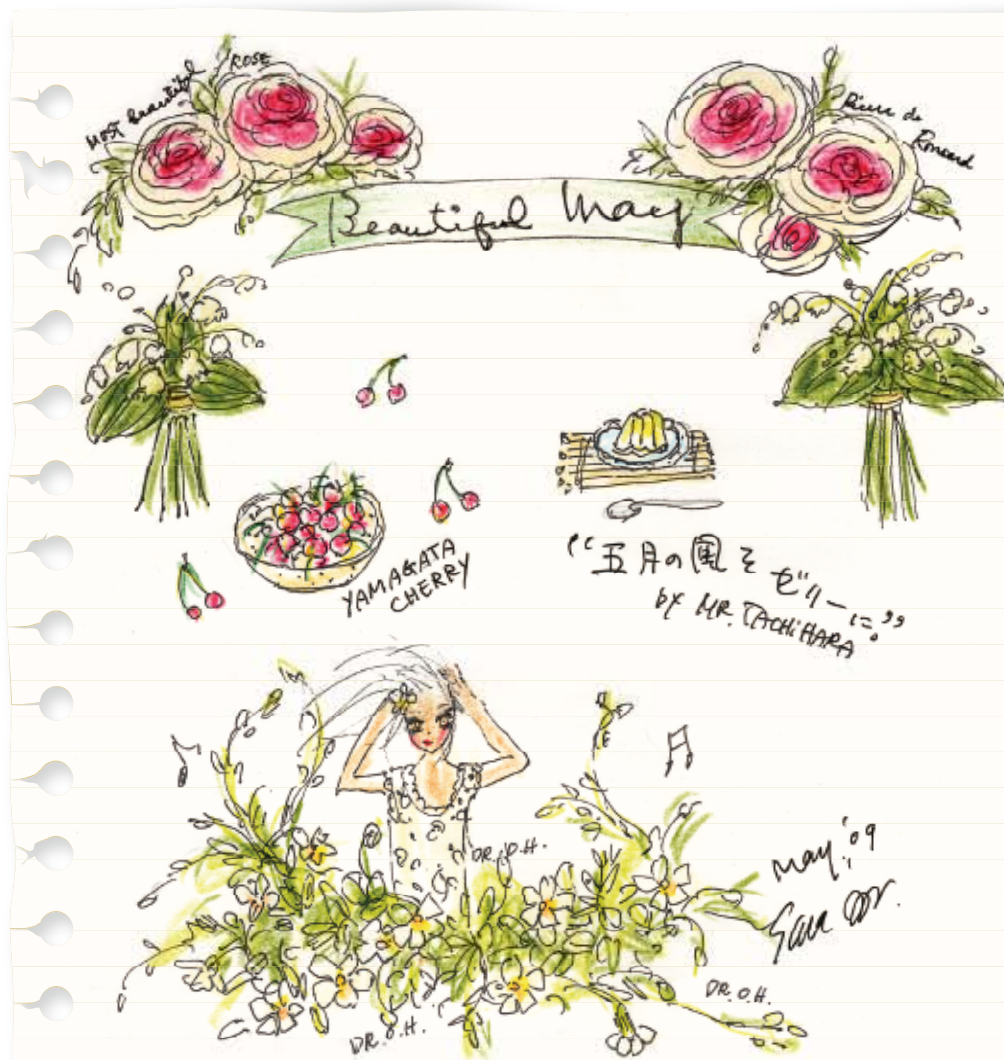
後藤の仕事は「公共」という面で資本主義が高度化する中で必ず重要になってくる「医療」「教育」「交通」の全てをまかなっていた。内務大臣、逓信大臣、外務大臣のほか、NHK の前身である東京放送局総裁、シチズン時計の名づけ親など限られた紙面では語り尽くせぬ活躍をみせている。後藤と中村、ふたりの活躍の続きはぜひ参考文献をひもといてみてほしい。



現在の満鉄本社

今回の記事作成にあたり、後藤新平氏のご親族に電話にてお話を伺うことができました。また日本航空大連支店長黒田篤さん（大連日本商工会長）に協力いただきました。

(註 1) 南満州鉄道株式会社十年史（第一次満鉄十年史）p101
(註 2) 青柳達雄著「満鉄総裁 中村是公と漱石」p53（勉誠社）
(註 3) 同掲書 p73（勉誠社）
(註 4) 「時代の先覚者 後藤新平 1857－1929」p155（藤原書店）
(註 5) 「後藤新平の『仕事』」p24（藤原書店）
(註 6) 「都市問題」公開講座ブックレット（11）
後藤新平生誕 150 周年記念・第 17 回「都市問題」公開講座
経世家・後藤新平—その生涯と業績を語る p16
(註 7) 同掲書 p19



Living in AZABU

麗しの五月

うるわしの五月だ。

詩人、立原道造さんは“五月の風をゼリーに” —とおっしゃった。
何てすてき!だから、立原さんは“立原さん”だ!!

五月生まれのイコちゃんと私は、すずらんが大好き。

あのかわいいお花の形と香。

この季節のシンボリックなお花よねー。などと語りあっている。

ばらのお花も咲き乱れる五月!

特に、オールドローズのピエール・ド・ロンサールが大好き。

もう、魅せられ続けている。

港区のお花のひとつ、はなみずきも麻布の街のいろんな所に咲いている。
うれしいね。

ジャスミンのお花への私の♡想いもあって

いっぱい咲いている所へ見に出かける。

季節の美味しいもの。まさに食べる宝石だ。

日本の美し〜いさくらんぼ。食する前に、まず見入ってしまう。

何しろ麗しい五月!

(イラストレーション・文/湊 早苗)



麻布消防署からの お知らせ

**住宅用火災警報器の
設置促進キャンペーン
「Tokyo Fire Alarm 2009」
を開催!!**

**つけましたか?
住宅用火災警報器**

日時: 平成21年4月4日(土)

午前11時~午後5時

会場: 六本木ヒルズアリーナ他

主催: 東京消防庁・第一消防方面本部・麻布消防署 Tokyo Fire Alarm 2009実行委員会

内容: ○東京消防庁音楽隊・カラーガーズ隊による演奏・演技
○レスキュー隊による救助技術の披露
○江戸消防記念会による昔ながらのはしご乗りの妙技、商店街の屋台 etc

来場者に抽選で住宅用火災警報器をプレゼントします。皆様お誘い合わせの上ご来場ください!

お問い合わせ/麻布消防署

電話/03-3470-0119



港都税事務所からの お知らせ

**4月からeLTAXを利用して、
法人事業税・地方法人特別税・
法人都民税、事業所税
の電子納税ができます。**

この電子納税を利用することで、Pay-easy(ペイジー)を通じて、インターネットバンキング、ATM等で納付できるようになります。

詳しくは、主税局ホームページ(<http://www.tax.metro.tokyo.jp/>)をご覧ください。



	電子納税
事業所税 (23区内)	・本税の納付 ・延滞金の納付 ・加算金の納付
法人事業税 地方法人特別税 法人都民税	・本税の納付 ・延滞金の納付 ・加算金の納付 ・見込納付

eLTAX 利用手続きについてのお問い合わせ
ホームページ <http://www.eltax.jp/>
サポートデスク 電話/0570-081459
(IP 電話・PHS から/03-5339-6701)

お問い合わせ/港都税事務所
電話/03-3453-3211(代)

読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてもらいたい情報など、何なりとお寄せください。
より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。



ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名手ぬぐい」プレゼント!

「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。

●電話で.....03-5114-8811(月~金/9:00~17:00)

●ファックスで.....03-3583-3782

●郵送で.....〒106-8515 港区六本木 5-16-45 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛



麻布地区 総合支所だより



総合支所からの お知らせ

平成21年4月1日総合支所が よりいっそう充実します。

平成 18 年 4 月、「より便利に、より身近に、より信頼される区役所・支所」をめざし、総合支所を設置しました。これまでの成果・効果の検証を行い、総合支所の組織の再編、機能の見直しを行い、更なる総合支所の充実を図ります。
課名が変更になります。

麻布地区総合支所のレイアウトおよび事務分掌については下記のとおりです。

お問い合わせ／麻布地区総合支所地区政策課
電話／ 03-5114-8812

子育て便利帳「ヨチヨチ」 を発行します。

麻布地区では、子育て中のおかあさん、おとうさんに楽しんで子育てしていただけるよう、麻布地区の子育て情報を満載した子育て便利帳「ヨチヨチ」を発行します。
この子育て便利帳はNPO等の協働で編集し、子育て中のおかあさん、おとうさんにご協力をいただき子育て情報はもちろんのこと、読んでも楽しい便利帳となっています。
発行のお問い合わせは麻布地区総合支所地区政策課まで。みなとコールセンターでもお答えできます。

麻布図書館“休館”のお知らせ

麻布図書館は、昭和48年に竣工してから30年以上が経過し、設備の老朽化が著しいため、麻布図書館改築竣工までの間、休館いたします。なおこの間、代替施設を以下のとおり設置します。

休館期間／平成 21 年 3 月 1 日 (日) から
麻布図書館改築竣工時まで

代替施設概要

- ①名称：(仮称) 麻布図書サービスセンター
- ②場所：港区三田一丁目10番4号
麻布十番日新ビル1階 (予定)
- ③開設時期：平成21年 5 月1日 (予定)
- ④主なサービス内容
 - 1. 予約された本・CD等の貸出
 - 2. 雑誌・新聞の閲覧、雑誌の貸出
 - 3. 児童書の閲覧、貸出
 - 4. 複写サービス
 - 5. インターネット用パソコンの利用

利用者の皆さまには、しばらくの間ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

お問い合わせ／みなと図書館庶務係
電話／ 03-3437-6621



窓口サービス係

- 住民登録、各種証明書の発行、印鑑登録、住基ネットカード、公的個人認証
- 出生・死亡・婚姻等の届出、戸籍証明の発行、埋葬許可等
- 区税・国民健康保険・長寿医療制度・国民年金・介護保険に関すること
- 納・課税証明書の発行、オートバイ(125cc以下)の登録・廃車
- その他

生活福祉係

- 生活の相談、生活保護の実施と生活保護世帯への無料入浴券の支給、生活保護世帯への都営交通無料バスの交付、療養資金貸付の相談、旧軍人遺族への特別給付金等の相談・申請の受付など

保健福祉係

- 高齢者の福祉サービスの手続き
- 障害のある人の福祉サービスの手続き
- 児童手当、子ども医療費助成等の手続き
- 保育園の入園手続き
- 母子健康手帳の交付
- その他

土木係

- 所管区域の道路・橋りょう・公園・公衆便所・街路樹・街路灯の維持管理、私道整備工事の助成、私道の防犯灯設置助成に関する相談・申請の受付 など

活動推進係

- 地域振興について
- 防災・生活安全について
- 環境・清掃について
- その他

施設運営係

- 所管区域施設(保育園・児童館・福祉会館)の運営・管理・施設計画
- 所管区域の放課 GO →クラブの管理
- 所管区域の子ども中高生プラザの施設計画

調整係

- 区民からの意見・要望・陳情相談の受付、区民の声を広く聴くための事業の実施、区の後援名義等の申請、り災証明の発行、区政資料の収集および提供など

地区政策係

- 地域における計画づくり、地域情報紙や番組の制作、区民・NPO等との協働推進や文化振興に関する相談、区政への区民参画の推進、地域の商店街活動への支援、区民向け住宅の入居相談 など

まちづくり推進担当

- 地域事業等の推進、街づくりに関する相談、まちづくりコンサルタントの派遣、交通対策に関する相談、緑化の普及啓発・助成、保護樹木・樹林指定の相談など

ザ・AZABU

- 配布設置場所ご案内
- 六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと荘、麻布区民センター、麻布地区総合支所等
- 本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 尾崎恭彦
Sub Chief 伊東みゆき
Staff 石山恒子
加藤智恵
金子成一
伊藤志織
石橋千恵子
大村公美子
岡野真由美
石山 茜
大村 響

橋本明子
湊 早苗
森 明
山下良蔵

港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。

編集後記

麻布に住んで 30 年。ザ・AZABU 編集部員として参加しては一年が過ぎました。今まで何十年も自宅と会社の往復だけで通り過ぎてきた麻布を、編集会議でそれぞれの取材のこぼれ話を聞くたびに再発見しているところです。まだまだ知らない場所がたくさんあるので、これをきっかけにまず家の周りから歴史ある麻布の町を歩いてみようと思いました。今回も楽しい記事がいっぱい。皆、がんばって取材に行っていますので御覧ください。

(橋本明子)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休／午前7時～午後11時 **※英語での対応もいたします。**

電話／ 03-5472-3710 ファックス／ 03-5777-8752
Eメール／ info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. – 11 p.m.
Visit Minato Call at Tel.: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp